



豊中市立第十八中学校の2年生  
約80人を対象に実施(10月23日)

# 「つながり」実感できる

## 中学生むけ出前授業

### 近運局

【大阪】近畿運輸局は10月23日、豊中市立第十八中学校の2年生約80人を対象に物流出前授業を実施し、業界の仕事や魅力を紹介した。大阪府トラック協会も協力しており、越野運送(大阪市都島区)の越野泰弘社長が講師として、トラック運送事業のやりがいや面白さについて語った。

(黒須晃)

### ウイング車を展示

次世代を担う中学生が物流の大切さを学ぶことで、将来の職業選択の参考にしてみようことを目的に開催。また、24日には大阪南港地区でフェリー「さんふらわあ ことばと」の船内や、住友倉庫の大阪南港東

「『物』が生産者から消費者へと『流通』する過程」と伝えた。また、この過程の中には多くの「働く人」が必要となるため、「今後を担う皆さんには、『物流』という仕事を選択肢の一つとして入れて欲しい」と強調した。

越野氏は掃除用具を扱う企業から請け負っているルート配送について説明。発注を受けて用具を営業店舗までトラックで運んでおり、「顧客から信頼を得るためには、必ずオーダーされた時間通りに運ばなければいけない」と語った。このほか、自動車の部品や中学校、高校の吹奏楽部の楽器を運搬していると紹介した。

楽器運搬の仕事について、自社のドライバーが配送先の高校の卒業コンサートに招待され、感謝の言葉を受けたエピソードを披露。「物を運ぶだけでなく、人と『思い』を共有し、人との『つながり』を実感できることがやりがい」とアピールした。

この後、体育館前に越野運送の4トウイング車を展示。ウイングが開くと、生徒や教員から「トラックの中はこうなってるんだ」「すごく格好いい」といった声が上がった。

## 日赤に27万3000円寄付

大阪ト協北大阪支部

西日本豪雨の復興支援